

平成22年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成22年11月9日

上場会社名 株式会社フォーサイド・ドット・コム 上場取引所 JQ
 コード番号 2330 URL http://www.for-side.com
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 安嶋 幸直
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役財務部長 (氏名) 飯田 潔 (TEL) 03(5339)5211
 四半期報告書提出予定日 平成22年11月12日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年12月期第3四半期の連結業績（平成22年1月1日～平成22年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年12月期第3四半期	3,500	24.5	648	-	659	-	872	-
21年12月期第3四半期	4,636	21.8	149	-	274	-	367	-

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
22年12月期第3四半期	393	40	-	-
21年12月期第3四半期	161	17	-	-

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	円	百万円	円	%	円	銭	
22年12月期第3四半期	7,554		6,888		91.2	3,099	86	
21年12月期	8,522		7,893		92.5	3,547	73	

(参考) 自己資本 22年12月期第3四半期 6,888百万円 21年12月期 7,882百万円

2. 配当の状況

	年間配当金									
	第1四半期末		第2四半期末		第3四半期末		期末		合計	
	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭
21年12月期	107	00	0	00	-	-	44	00	151	00
22年12月期	-	-	0	00	-	-				
22年12月期(予想)							78	00	78	00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無：無

3. 平成22年12月期の連結業績予想（平成22年1月1日～平成22年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	7,000	14.3	700	-	700	209.8	700	76.0	315	56

(注) 当四半期における業績予想の修正有無：無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.3「2. その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動：無

新規 - 社（社名） 除外 - 社（社名）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用：有

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

会計基準等の改正に伴う変更：無

以外の変更：有

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

期末発行済株式数（自己株式を含む）	22年12月期3Q	2,222,074株	21年12月期	2,225,004株
期末自己株式数	22年12月期3Q	-株	21年12月期	3,086株
期中平均株式数（四半期連結累計期間）	22年12月期3Q	2,217,019株	21年12月期3Q	2,277,043株

四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている連結業績予想は発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、【添付資料】P.3「1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報（3）連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	3
(1) 重要な子会社の異動の概要	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) セグメント情報	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

業績

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、企業収益の改善や設備投資の持ち直しなど、緩やかな改善がみられる一方で、欧米圏の経済や財政への懸念、急速な円高進行などに端を発する先行き不透明感が依然として残る不安定な状況が続いています。

モバイル・インターネット業界では、国内における携帯電話加入数が、平成22年9月末時点で11,540万人（前年同期比5.3%増）と堅調に推移しています。国内のスマートフォン市場は、緩やかな成長にあります。通信キャリアや端末メーカーによる積極的な取組みに加え、新しいプラットフォームに対応した製品の導入など、スマートフォン普及に向けた施策を強化しており、今後の市場拡大が期待されることから、国内市場の動きが注目されています。（出所：携帯電話契約数/社団法人電気通信事業者協会）

このような状況下において、当社は、世界各国の出版社から電子書籍の配信権利獲得と、様々な端末に適應するマルチビューワーの開発、SNSサイト向けアプリケーションの開発とその提供に引き続き取り組んでまいりました。

また、当第3四半期において音楽系のコンテンツ資産等の売却が成約となり、再成長戦略にて掲げております「事業ポートフォリオの組み換え」についても概ね完了し、当第3四半期連結会計期間では、売上高1,160,037千円、営業利益120,733千円、経常利益128,803千円、当期純利益90,622千円の黒字となりました。

しかしながら、第1四半期からの累計では、サイト統廃合の影響及びプロモーションの抑制により減収となり、広告保証金を全額費用化したこともあり、第2四半期までの損失を賄うことができずに減益となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高3,500,600千円（前年同期比24.5%減）、営業損失648,593千円（前年同期は149,157千円の営業利益）、経常損失659,326千円（前年同期は274,563千円の経常利益）、当四半期純損失872,166千円（前年同期では367,001千円の四半期純利益）となりました。

事業の種類別セグメント

()コンテンツ事業

コンテンツ事業では、「事業ポートフォリオの組み換え」が概ね完了し、獲得したグローバルライセンスを独自生産ラインにて、スピーディかつ安価にスマートフォンマーケットへの素材の大量投入を行える組織体制の構築に取り組みました。

しかしながら、プロモーションの抑制やレギュレーションの変更等による素材の大量投入が遅れたこと及び、新規サービスの開発遅延が影響し、売上は減収となりました。

この結果、当該事業の売上高は2,903,061千円（前年同期比32.5%減）、営業損失194,993千円（前年同期は730,150千円の営業利益）となりました。

()マスターライセンス事業

マスターライセンス事業では、引続き、事業ポートフォリオの組み換えに伴う、ノンパッケージ商品の売上を計上しております。

この結果、当該事業の売上高は192,154千円（前年同期比43.2%減）、営業利益は1,703千円（前年同期比64.3%減）となりました。

()ファンディング事業

ファンディング事業につきましては、前年度まで営業外損益として認識しておりました各種金融取引業務を事業部化したしました。当四半期においては、景気は新興国経済の拡大等を背景にしながら輸出の増加や生産の持ち直し、企業の業況判断の改善等がみられ、穏やかながらも回復基調となりましたが、為替相場については円高基調となり、資金運用の一部がその影響を受けました。

この結果、当該事業の売上高は311,047千円、営業損失は31,353千円となりました。

なお、当社は、当第3四半期連結累計期間より、「ファンディング事業」を新たに区分したため、前年同四半期連結累計期間との比較は行っておりません。

()その他の事業

その他の事業では、モバイルコンテンツのプロモーション代行、請求収納代行業務の取次を中心に事業展開いたしました。

この結果、当該事業の売上高は94,337千円、営業損失は38,417千円となりました。

なお、当社は、当第3四半期連結累計期間より、「その他の事業」を新たに区分したため、前年同四半期連結累計期間との比較は行っておりません。

事業の所在地別セグメント

()日本

通信キャリアが展開する、スマートフォンマーケット向けの素材を、早期に大量に投入するための体制を強化し、その実現に努めてまいりました。

この結果、当該事業の売上高は3,468,735千円(前年同期比20.5%減)、営業損失は124,179千円(前年同期は812,860千円の営業利益)となりました。

()北米

海外の通信キャリアや様々な端末に向けたアプリケーションを開発し、その配信を開始することで、新規流通先の開拓を進めてまいりました。

この結果、当該事業の売上高は31,865千円(前年同期比88.2%減)、営業損失は138,693千円(前年同期は77,505千円の営業損失)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

総資産

当第3四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比べて967,875千円減少し7,554,536千円となりました。主な要因と致しましては、現金及び預金の減少643,424千円、広告保証金等の取崩による前払費用の減少459,149千円、償却・除却等によるコンテンツ資産及びソフトウェアの減少167,925千円等によるものであります。

純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産は前連結会計年度末に比べて1,005,685千円減少し6,888,120千円となりました。主な要因と致しましては、四半期純損失の計上872,166千円、剰余金の配当97,764千円等によるものであります。

キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べて640,001千円減少の4,218,895千円となりました。なお、各キャッシュ・フローの状況等につきましては以下のとおりとなっております。

() 営業活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期連結累計期間の営業活動による資金の減少は301,787千円(前年同期は541,188千円の減少)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純損失 742,604千円の計上、広告保証金等の取崩による前払費用の減少459,149千円、回収による売上債権の減少159,179千円、保証金の増加 487,812千円等があったことによるものであります。

() 投資活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期連結累計期間の投資活動による資金の減少は219,351千円(前年同期は1,268,114千円の減少)となりました。これは主に、貸付金の回収による増加34,758千円、差入保証金の回収による増加30,689千円があったものの、貸付けによる支出 169,468千円、無形固定資産の取得による支出 117,447千円等があったことによるものであります。

() 財務活動によるキャッシュ・フロー

当第3四半期連結累計期間の財務活動による資金の減少は118,467千円(前年同期は592,103千円の減少)となりました。これは主に、株式の発行による収入で42,206千円増加したものの、自己株式の取得による支出 63,786千円及び、配当金の支払額 95,363千円によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

通期の業績予想につきましては、下期の市場動向及びその業績に与える影響が不透明なため、前回発表予想の数値を据え置くことといたします。今後の業績の推移に応じて修正の必要性が生じた場合には、速やかに公表いたします。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

棚卸資産の評価方法

当第3四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、前連結会計年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定しております。

固定資産の減価償却の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

(金融商品等の取引に係る会計処理)

金融商品及び金融派生商品の取引から生ずる損益については、従来、営業外損益に計上しておりましたが、当該損益のうち余剰資金の運用を目的とする取引に係る損益はファンディング事業の成果として認識することとなり、今後さらにその重要性が増すと見込まれるため、当第3四半期連結累計期間より売上高または売上原価として計上する方法に変更いたしました。なお、相場変動リスク等のヘッジを目的とする取引から生ずる損益については、従来通り営業外損益に計上しております。

この変更により、従来の方法によった場合と比較して、売上高は311,047千円増加、売上原価は326,766千円増加、営業損失は15,718千円増加しておりますが、経常損益以下に与える影響はありません。

(4) 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年9月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,253,454	4,896,879
売掛金	1,440,726	1,599,905
コンテンツ資産	190,887	329,872
その他	1,061,296	921,713
貸倒引当金	211,597	162,265
流動資産合計	6,734,767	7,586,105
固定資産		
有形固定資産	23,986	15,117
無形固定資産	214,552	243,677
投資その他の資産		
その他	582,998	679,124
貸倒引当金	1,768	1,613
投資その他の資産合計	581,230	677,511
固定資産合計	819,769	936,306
資産合計	7,554,536	8,522,412
負債の部		
流動負債		
買掛金	146,170	226,427
引当金	3,029	-
その他	487,246	371,498
流動負債合計	636,445	597,925
固定負債		
その他	29,970	30,680
固定負債合計	29,970	30,680
負債合計	666,416	628,606
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,141,876	4,112,684
資本剰余金	3,371,373	3,512,850
利益剰余金	405,230	466,936
自己株式	-	9,119
株主資本合計	7,108,019	8,083,351
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	151,465	132,165
為替換算調整勘定	68,434	68,418
評価・換算差額等合計	219,899	200,583
新株予約権	-	11,037
純資産合計	6,888,120	7,893,806
負債純資産合計	7,554,536	8,522,412

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)
売上高	4,636,077	3,500,600
売上原価	1,107,579	1,270,036
売上総利益	3,528,497	2,230,564
販売費及び一般管理費	3,379,339	2,879,157
営業利益又は営業損失()	149,157	648,593
営業外収益		
物品売却益	44,933	-
金融派生商品収益	63,373	36,006
その他	53,634	11,455
営業外収益合計	161,941	47,462
営業外費用		
出資金運用損	34,223	24,301
為替差損	-	30,880
その他	2,312	3,013
営業外費用合計	36,535	58,195
経常利益又は経常損失()	274,563	659,326
特別利益		
事業譲渡益	4,806	-
貸倒引当金戻入額	-	23,546
新株予約権戻入益	-	77
特別利益合計	4,806	23,624
特別損失		
固定資産除却損	-	84,665
契約解除損	-	15,643
貸倒損失	44,234	-
その他	20,577	6,593
特別損失合計	64,812	106,902
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	214,557	742,604
法人税、住民税及び事業税	5,238	2,836
法人税等調整額	157,682	126,725
法人税等合計	152,443	129,561
四半期純利益又は四半期純損失()	367,001	872,166

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	214,557	742,604
減価償却費	50,896	55,870
減損損失	1,791	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	43,821	49,486
賞与引当金の増減額(は減少)	4,034	3,029
固定資産除却損	11,569	84,665
投資有価証券売却及び評価損益(は益)	264	-
出資金運用損益(は益)	34,223	24,301
金融派生商品収益	63,373	36,006
受取利息及び受取配当金	22,576	8,665
売上債権の増減額(は増加)	602,108	159,179
たな卸資産の増減額(は増加)	89,752	144,616
未収入金の増減額(は増加)	47,718	29,035
前払費用の増減額(は増加)	333,181	459,149
前渡金の増減額(は増加)	59,854	6,241
保証金の増減額(は増加)	-	487,812
長期前払費用の増減額(は増加)	117,057	14,436
仕入債務の増減額(は減少)	26,844	79,604
未払金の増減額(は減少)	198,087	46,528
前受金の増減額(は減少)	19,013	3,285
預り金の増減額(は減少)	774	10,429
リース資産減損勘定の増減額(は減少)	16,135	9,542
その他	9,009	6,879
小計	547,920	307,015
利息及び配当金の受取額	13,631	9,313
法人税等の支払額	6,899	4,085
営業活動によるキャッシュ・フロー	541,188	301,787
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	1,038,604	-
有形固定資産の取得による支出	9,797	-
無形固定資産の取得による支出	124,971	117,447
敷金の差入による支出	45,482	1,966
敷金の回収による収入	44,790	360
差入保証金の差入による支出	131,871	-
差入保証金の回収による収入	1,169	30,689
投資有価証券の取得による支出	96,924	6,434
投資有価証券の売却による収入	97,189	-
子会社株式の取得による支出	23,661	-
貸付けによる支出	193,798	169,468
貸付金の回収による収入	190,474	34,758
金融派生商品の売却による収入	63,373	10,157
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,268,114	219,351

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年1月1日 至平成21年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
新株予約権の行使による株式の発行による収入	-	42,206
自己株式の取得による支出	349,996	63,786
配当金の支払額	242,106	95,363
リース債務の返済による支出	-	1,524
財務活動によるキャッシュ・フロー	592,103	118,467
現金及び現金同等物に係る換算差額	844	395
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	2,402,250	640,001
現金及び現金同等物の期首残高	6,360,999	4,858,897
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,958,748	4,218,895

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成21年1月1日至平成21年9月30日)

	コンテンツ 事業 (千円)	マスターライ ツ事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	4,297,911	338,165	4,636,077	-	4,636,077
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	-	-	-
計	4,297,911	338,165	4,636,077	-	4,636,077
営業利益又は営業損失()	730,150	4,775	734,929	585,768	149,157

当第3四半期連結累計期間(自平成22年1月1日至平成22年9月30日)

	コンテンツ 事業 (千円)	マスターライ ツ事業 (千円)	ファンディ ング事業 (千円)	その他の事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	2,903,061	192,154	311,047	94,337	3,500,600	-	3,500,600
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	2,903,061	192,154	311,047	94,337	3,500,600	-	3,500,600
営業利益及び営業損失()	194,993	1,703	31,353	38,417	263,060	385,532	648,593

(注) 1. 事業区分の方法

事業区分は、内部管理上採用している区分に基づき、市場及び事業形態を考慮して決定しております。

2. 各区分に属する主な事業内容は以下のとおりであります。

事業区分	事業内容
コンテンツ事業	モバイルコンテンツの企画・製作・配信、配信許諾、音源売却
マスターライツ事業	DVD、配信許諾、物販事業
ファンディング事業	金融商品の売買
その他の事業	広告事業、請求収納代行業務

3. 事業区分の変更

従来、事業区分は「コンテンツ事業」、「マスターライツ事業」、の2事業区分に分類しておりましたが、当第3四半期連結累計期間より、「ファンディング事業」、「その他の事業」を追加し4事業区分に変更しております。

なお、事業区分の追加であるため、前第3四半期連結累計期間との比較における影響はありません。

【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成21年1月1日至平成21年9月30日)

	日本 (千円)	北米 (千円)	欧州 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	4,365,544	270,532	-	4,636,077	-	4,636,077
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	4,365,544	270,532	-	4,636,077	-	4,636,077
営業利益及び営業損失()	812,860	77,505	429	734,926	585,768	149,157

当第3四半期連結累計期間(自平成22年1月1日至平成22年9月30日)

	日本 (千円)	北米 (千円)	欧州 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	3,468,735	31,865	-	3,500,600	-	3,500,600
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	3,468,735	31,865	-	3,500,600	-	3,500,600
営業利益及び営業損失()	124,179	138,693	188	263,060	385,532	648,593

- (注) 1. 国又は地域は、地理的近接度により区分しております。
 2. 本邦以外の区分に属する国又は地域の内訳は次のとおりであります。
 (1) 北米.....米国
 (2) 欧州.....英国

【海外売上高】

前第3四半期連結累計期間(自平成21年1月1日至平成21年9月30日)

	北米	計
海外売上高(千円)	270,532	270,532
連結売上高(千円)	-	4,636,077
連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	5.8	5.8

当第3四半期連結累計期間(自平成22年1月1日至平成22年9月30日)

	北米	計
海外売上高(千円)	31,865	31,865
連結売上高(千円)	-	3,500,600
連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	0.9	0.9

- (注) 1. 国又は地域は、地理的近接度により区分しております。
 2. 本邦以外の区分に属する国又は地域の内訳は次のとおりであります。
 北米.....米国

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第3四半期連結累計期間(自平成22年1月1日至平成22年9月30日)

(単位:千円)

	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
前連結会計年度末残高	4,112,684	3,512,850	466,936	9,119	8,083,351
当第3四半期連結会計期間末までの変動額					
剰余金の配当	-	97,764	-	-	97,764
四半期純利益(は損失)	-	-	872,166	-	872,166
自己株式の取得	-	-	-	63,786	63,786
自己株式の消却	-	72,906	-	72,906	-
新株の発行(新株予約権の行使)	29,192	29,192	-	-	58,385
当第3四半期連結会計期間末までの変動額合計	29,192	141,477	872,166	9,119	975,331
当第3四半期連結会計期間末残高	4,141,876	3,371,373	405,230	-	7,108,019